



法の館で万田小の児童へクイズを出題する三角小の児童たち

— 三角西港で交流学習 —

世界遺産でつながる児童たち

11/27 三角西港で三角小と荒尾市立万田小の6年生約80人が、両市にある世界遺産を学ぶ交流学習を行いました。学習は、港内にある石積み埠頭などの建造物を巡るスタンプラリー方式で実施。三角小児童たちは、事前に調べた各施設のことを万田小の児童たちにクイズを交え説明し、互いに交流を深めました。



試合終了後、サポーターへ駆け寄り選手たち

— ウイングまつばせでホーム2連戦 —

応援を力にこれからも戦う

11/22～23 バレーボールVリーグ女子のフォレストリープズ熊本が広島オイラーズとのホーム2連戦に臨みました。会場には市が無料招待した市民約140人を含む約880人が応援に駆けつけ、チームは両日とも勝利しました。安田育代選手は「感謝の気持ちを一番にこれからも戦っていききたい」と話しました。



講師(写真左)から横断歩道の渡り方を習う園児たち

— 市主催の交通安全出前講座 —

安全で安心して暮らすために

11/11 不知火町松合のふたば保育園で宇城地区交通安全協会の講師による出前講座を開催。これは、地域の交通安全の啓発を目的に7月から11月にかけて同町内の保育園などで市が主催したもの。講師たちは、園児たちへ道路を歩く際の約束事について、手作りの教材を使って話し、交通安全の大切さを訴えました。



新しくサポーターとなった皆さん

— ファミリーサポートセンター提供会員養成講座 —

地域の心強い子育てサポーターを

11/4・11・18・25 保育サービスを提供する提供会員養成講座を市こどもセンターで開催。これは、周りに頼れる人がいない子育て世帯の子どもの預かりや送迎などを支援するサポーター会員を養成するもの。講座修了者からは「子育て世代のためにできることから取り組んでいきたい」などの意気込みが聞かれました。



サトウキビから出た汁を煮詰める作業をする児童たち

— 青海小の児童たちが黒砂糖づくりを体験 —

ふるさとの伝統を継承

11/30 青海小の授業の一環で黒砂糖づくり体験学習が実施され、同小の児童や地域住民ら約130人が参加。これは、地域の歴史的な産業を体験することで、郷土の理解を深める目的で毎年行われているもの。同小6年の河野武尊さんは「自分たちで育てたサトウキビが黒砂糖になってうれしい」と話していました。



豊福小吹奏楽部の演奏に合わせて歌う星乃さん

— 市出身の星乃さんが母校でコンサート —

ふるさとへの思いを歌に乗せて

11/28 宝塚歌劇団で華鳥礼良^{かとりれいら}として活躍した星乃^{ほしの}さんが、母校の豊福小でコンサートを初開催。小学生時代の恩師の要望で実現したこのコンサートで、星乃さんは全校児童約450人を前に、ディズニー映画の主題歌など全10曲を披露。同校吹奏楽部と共演したほか、児童たちへ声の出し方なども伝え、会場を魅了しました。



佐賀県小城市教委文化課の田久保佳寛課長による講演

— 世界文化遺産登録10周年記念事業 —

三角西港の築港に尽力した人物を知る

11/15 三角西港築港に貢献した熊本県令富岡敬明に焦点を当てた講演会が開かれ、約50人が出席。同港の世界文化遺産登録10周年記念事業の一環で市地域おこし協力隊が主催したもの。講演では、富岡敬明の生い立ちから熊本県令になるまでの歩みを紹介したほか、三角西港築港にまつわるエピソードを紹介しました。



熊本大学病院緩和ケアセンター長の吉武淳教授による講演

— がんフォーラムinうき —

自分らしく生きるために今できることを

11/15 ウイングまつばせで開催され、地元住民ら約250人が参加しました。医療課題を地域で理解してもらおうと(独)熊本南病院が主催。前回の開催に引き続き「人生会議」をテーマに、満足のいく人生を送るために必要なことなどの講演や救急現場での蘇生時の本人確認の在り方などの事例発表などが行われました。